

菊池溪谷に生息する鳥類

菊池溪谷には年間を通して 60 種以上の鳥類が生息する。この多様性を可能にしているのは、溪谷に豊かな森林と川の生態系が近接していることである。鳥の多くは人間を避けて、普段、ハイカーが近づくと逃避する。しかし一般の人もこの地域の野鳥を見ることができ、特に夏場は、特徴的な鳴き声を聞くことができる。

菊池川周辺の木々には、背中と翼が灰色、腹が栗色、頭が白黒の**ヤマガラ**、背中が黄緑色、翼が青灰色、頭が黒で頬が白い**シジュウカラ**、薄茶と灰色でずんぐりしたくちばしの**エナガ**などが一年中普通に生息している。水辺では、背中が灰色で腹部が鮮やかなレモンイエローの**キセキレイ**や、体長 40cm ほどで頭に尖った羽を持つ白黒の**ヤマセミ**もよく見かけられる。溪谷の上流には、翼を広げると 175cm にもなる堂々とした黒褐色の猛禽類、**クマタカ**が生息している。この頂点捕食者の存在は、食物連鎖が発達した健全な生態系を意味する。

春から夏にかけては渡り鳥が溪谷に現れ、東南アジアから渡ってくる色鮮やかな**オオルリ**の鳴き声が溪谷全体に響き渡る。この鳥は、少なくとも江戸時代からウグイス、コマドリとともに「日本三鳴鳥」とされ、その流麗でメロディアスな鳴き声のため愛玩用として親しまれてきたという。菊池溪谷にやってくるより大きい鳴鳥は**ホトトギス**で、千年以上前から「クワー・クワー・クワー・クワー」という 4 部構成の短い鳴き声で歌人に謳われてきた。

静けさが溪谷を包む冬には、背中が褐色で腹部が白っぽく、灰色と黄色のくちばしを持つ**シロハラ**が、餌を求めて林床を歩き回り、落ち葉をついばむ姿を目にすることができる。また、裸木の間**ヤマドリ**がちらほらと見えることもある。光沢のある褐色の羽を持つことからその英語名「copper pheasant」がついた、日本だけの優雅な長尾の鳥である。オスは黄色いくちばしと赤い顔が特徴で、メスは小型で体全体が灰褐色をしている。